

2023年  
海外トピックス  
韓国

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 経済

### 2月にチャーター、3月には定期便も！富士山静岡空港に韓国路線が戻る

ようやく富士山静岡空港の国際線が再開される。韓国最大手旅行会社のハナツアーは、コロナ前まで富士山静岡空港に就航していたチェジュ航空の機材をチャーターし、2月25日から28日まで3泊4日の旅行商品を、1月5日から販売開始した。

ハナツアーはこれまでも成田空港発着の静岡商品を取り扱っており、三島スカイウォークや静岡の街の散策も含んだツアーなどを販売していたところだが、今回は東京や横浜などをメインにした格安商品もあれば、伊豆の温泉旅館など静岡に2泊しながら河津桜を見る商品もあるなど、旅行者の趣向に併せ選択できる商品を揃えている。執筆時点では4つの商品が上がっているが、富士山周辺のトレッキングやゴルフツアーなど、テーマを絞った商品も予定しているようだ。

チャーター便というのは、同じ日にすぐ帰国する人はいないので、片道分が空になる。これを業界用語で「フェリー」という。フェリーも満席にしないと勿体ないので、静岡側の旅行会社には、静岡発の韓国旅行商品を作って販売していただく予定だ。同じく2月25日から28日という旅程になる。是非、たくさんの皆さんに休暇を取って韓国を訪れてほしいと願っている。

また、3月26日（日）からチェジュ航空による静岡—仁川の定期便も再開する。当面、水・金・日の週3便で、利用状況次第では増便の可能性もあるという。昨年4月以降、様々な関係者が当所とともに地道に粘り強く航空会社と交渉してきた。コロナの影響や、一時は日韓政府間交渉の進捗の鈍さによって、様々な制約が課されていたため、運航する航空会社側も二の足を踏まざるを得ない状況が続いていただけに、今は心からほっとしている。ただ、就航するだけではない。路線バスも一緒だが、利用者が少なければ減便、休便してしまう。県民の皆様には是非この路線を利用し、美味しい本場の韓国料理を食べに来ていただきたい。

## 社会・時事

### 貨物連帯のスト、全面敗北

12月9日、「全国民主労働組合総連盟（民主労総）公共運送労組貨物連帯」（通称、貨物連帯）が2週間余りの運送デモの末、政府に全面敗北した。2万人以上のトラック運転手で構成され、民主労総の中でも最強硬派と恐れられる貨物連帯は、11月24日に1万人余りでストに突入。「物流を止めて世の中を変える」というなかなかとんでもないスローガンのもと、最低運賃制度の期間延長・分野拡大などを要求した。しかし、世論の支持は得られず、また、貨物連帯を労組としてみなしていない政府がストを「不法行為」と断定し強硬姿勢を取ったことで、参加者も収入や免許取消の不安などから徐々に離脱、結局要求を一つも達成できずに敗北した。

同時期にストを始めた地下鉄労組や鉄道労組は早々に交渉を妥結した。韓国は非常にデモやストが多い。輸送を人質にする形での大規模なストは、できれば御遠慮願いたいものだ。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 東アジア文化都市 2023 韓国選定都市「<sup>チョンジュ</sup>全州市」を訪問

静岡県は今年 2023 年、文化庁に「東アジア文化都市」として、日本代表に選定されている。東アジア文化都市は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき始まった。日本・中国・韓国の 3 か国で、文化芸術による発展を目指す都市を毎年選定し、その 1 年間は選定都市において、芸術文化・生活文化に関する様々なイベント等を実施する。これによって、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進し、東アジアとしての文化力発信を強化するものである。

韓国では今年、朝鮮半島の南西部、全羅北道の全州市が指定されている。同市は人口約 65 万人で、朝鮮王朝の祖、李成桂（イ・ソンゲ）を輩出した全州李氏の故郷であり、古くから栄えた街である。中心部には昔の建築が保存された「全州韓屋村」が整備されており、一大文化観光地となっている。朝鮮半島西部の全羅道全体が食の宝庫ではあるが、全州はビビンバ発祥の地であり、他にも豆もやしのクッパが特に有名で、伝統酒のマッコリも多く造られる食の都である。また、歌い手が太鼓の演奏に合わせ、歌・台詞・身振りで行う一人オペラ「パンソリ」でも有名で、春には全州映画祭なども開催される文化色の強い街である。

この度、2月3日に地域外交担当部長とともに全州市副市長を表敬訪問し、2023年を通じ、静岡において全州を、全州において静岡を様々な機会を通じて紹介しようと提案した。副市長も大いに喜んで合意し、まずはその一環として、韓屋村の観光案内所にて静岡県を紹介するコーナーを設けることを約束してくれた。今後はさらに韓国メディアを静岡県へ招へいし、本県の魅力を韓国の国民に広く発信してもらいたいと考えている。

## 経済

### プラモデルの聖地・静岡の企業商品が一堂に！

ソウルには鉄道を中心となる駅がいくつかある。ソウル駅が東京駅、清涼里駅が上野駅だとするならば、龍山駅は品川駅のイメージだろうか。その龍山駅に隣接する IPARK モールの 6 階にはバンダイナムコ・コリアが運営する「THE GUNDAM BASE」と韓国タミヤが運営する「TAMIYA PLAMODEL FACTORY」がある。品揃えは驚くほどに豊富で、もはや日本に買いに行かなくてもよいほどである。言わずと知れた静岡のプラモデルが、ここ韓国においても人気なのである。私が訪れた 2 月 4 日は、GUNDAM BASE では通常の入店者とは別に、限定商品を購入するためだけに長蛇の列を成しているコアなファンの姿も見受けられた。また、タミヤの店先では、日本の戦前の軽巡洋艦のプラモデルなども複数の種類が販売されており、さすがに私も少し驚いた。プラモデルを魅力に感じている人々が一定数いるということだ。

調べてみると、GUNDAM BASE は日本の東京と福岡に各 1 店舗と、中国上海に 2 店舗、台湾とタイに各 1 店舗ずつあるのだが、なんと韓国にはこの IPARK モール店を含め、韓国各地に 10 店舗も存在した。タミヤのミニ四駆を走らすことができるコースも、全国に複数存在している。日本のアニメのフィギュアなども多数販売されていて、若い人々を中心に人気があるようだ。ちなみに、1 つ下の階には、YAMAHA の楽器コーナーもあった。静岡県内から龍山駅にお越しの際には、静岡県の誇るこれらの店にぜひ立ち寄ってほしい。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 3年ぶりの天皇誕生日レセプション

外務省並びに在外の大使館及び領事館は、毎年2月23日の天皇陛下の誕生日に合わせ、当地の賓客を招いたレセプションを開催する。この3年間は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、ほとんどの地域で開催を中止していたため、今年は久々の開催となった。

韓国では、この催しは大使館があるソウル、総領事館がある釜山及び済州で開催される。本県は今年文化庁から「東アジア文化都市」に選定されたことから、3か所全てにPRブースを設けた。

PRブースでは、日本と静岡県の特徴である富士山の「美」を伝える大きなポスターに加え、富士山が描かれた暖簾をテーブルから垂らすことで「和」の文化も感じられるようにした。「食」は県産わさびとクリームチーズを混ぜ、クラッカーに載せてカナッペ風に提供した。特にソウルでは、当地に輸入されている浜松の地酒「花の舞」も提供したところ、米国の武官が「会場の全ての地域の地酒を飲んだけど、この酒が一番のお気に入りだから、仲間を連れてきたよ」と別の国の大使館や武官を5人ほど連れて戻ってきたのは、素直に嬉しく誇らしかった。

意外と人気だったのは、駿河の「匠」の技術から発展した「プラモデル」の展示である。ガンダムのモビルスーツのプラモデルを2つ展示したところ、「なぜプラモデルがあるんだ?」「なぜガンダムが静岡?」という声が、日韓の双方の出席者から上がった。プラモデルのほとんどが静岡県で作られていることを紹介すると、嬉しそうな顔をして「実はうちの旦那が」「息子が」「私も」という声が多く聞かれた。相星駐韓大使閣下の御夫人からも同様の質問があったが「これは家康の頃から、ね?」と大使はニコリと奥様に話す。さすがよく御存知である。富士山、お茶、わさびに加え、ものづくりの静岡を紹介した3日間であった。

## 経済

### 国営放送人気バラエティ番組と人気YouTubeチャンネルで静岡県PR

今年に入り、チェジュ航空が3月26日から週3便の静岡—仁川路線を運航再開することが発表された。他の航空会社と比較して、チェジュ航空は団体旅行の割合が少なく、個人旅行者の利用が多い傾向の航空会社であることから、当所では、3月の運航再開に合わせ、1月から2月にかけて、テレビ番組のタイアップ企画を誘致するとともに、旅行専門の人気YouTuberを招へいし、県内の観光地や飲食店、宿泊施設での撮影に臨んだ。

テレビ番組は、韓国国営放送KBS2の「新商品発売～コンビニレストラン」で、簡単に作れる美味しいアイデアレシピを番組内で出演者が作って見せ、コンビニで販売するという企画が魅力の人気バラエティ番組だ。主に室内撮影が多い番組だが、特別に静岡県を訪れる企画として調整した。出演は同番組一の人気出演者で俳優のリュ・スヨン氏とタレントのカン・ナム氏（元スピードスケート金メダリストのイ・サンファ氏の夫）。1月に県内各地を訪れ撮影した。YouTuberは20代の明るく爽やかなカップル「Uiland(ユイルランド)」の二人だ。富士山がきれいに見える2月、富士宮でパラグライダーを体験し、静岡おでんや修善寺の温泉街を満喫した。楽しい動画に仕上がることも間違いなしだ。いずれも3月中下旬から末に2、3回に分けて放送・配信される。KBS2は韓国地上波だが、日本ではKBS Worldで1-2か月後に観られる。YouTubeは「Uiland」で検索すれば視聴可能。お楽しみに！

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 社会・時事

### 公共交通機関もマスク不要

韓国では3月20日、公共交通機関と大型施設内の薬局でのマスク着用義務が解除された。昨年5月、屋外でのマスク着用義務がなくなったものの、地下鉄やバスに乗るたびにマスクをしなければならず、結局、屋外でマスクを外している人はしばらくの間は3割程度だったように感じている。今年1月末、公共交通機関や一部施設を除く屋内でのマスク着用義務も解除されたことで、例えば、会社があるビルや飲食店、自分の住むマンションなどでもマスクが義務ではなくなったし、地下鉄なども車両に乗り込む前までは外して良いことになるので、このあたりから、5割から6割程度が外すようになってきたように感じていた。

しかし、それでも慎重な人々もいて、自己判断でマスク着用をする傾向は依然としてあった。感染者は減少傾向にあったこともあり、今回、政府がとうとう公共交通機関などのマスク着用を解除したことで、ようやく「本当にマスクを外していい社会がやってきた」という雰囲気が変わっている。私自身、自分のマンションのエレベーターや地下鉄、バス（ただし混雑しているときは着用）、オフィスなどでもほとんどマスクを外すようになっている。もう約7割から8割の人がマスクを外している印象だ。ただ、病院や医療機関、通常の薬局など感染リスクが高い場所は、依然としてマスク着用義務を残している。外国人観光客の姿もたくさん見られるようになっており、日本人はもちろん、特に最近は欧米の方々も多く見る。コロナ以前のソウルが戻ってきている。

## 経済

### 富士山静岡—仁川路線が臨時増便！

3月26日から週3便（日・水・金）で定期運航を開始したチェジュ航空による富士山静岡—仁川路線が、4月25日から5月24日まで週4便（月・火・木・土）を臨時便として追加運航することが4月3日、発表された。この臨時便は既に6月30日分まで延長販売されており、この間、デイリー運航となる。定期便は17時55分静岡発であるが、臨時便は11時00分に静岡を出発するので、静岡県民にとっては利用しやすい便となる。ただし、ゴールデンウィーク期間中のみ、臨時便は10時30分発となるので注意が必要だ。

韓国人の日本人気はコロナ前、いや、不買運動前かそれ以上の勢いに戻っている。当事務所もコロナ期間中は接触を避けるためパンフレットを求める一般客の訪問が皆無に等しい状態になっていたが、現在は毎日のように来客があり、また、ブログやウェブサイトを通してパンフレットの郵送を希望されるお客様も増えていて、人気を実感している。

ただ、「静岡」の知名度は相変わらず高くない。「知らない人は全然知らない」という状況である。一方で、驚くほどよく知っている人も多く、二極化されるイメージだ。最近はキャンプ人気もあり、キャンプ場の情報を求める方や、3月に当所が制作支援して放送されたテレビ番組の影響で、グルメ旅の情報を求める方、はたまた静岡路線を利用して県内に2、3泊するトレッキングツアーを作りたいという旅行業者もある。これからの楽しみである。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 東アジア文化都市 全州市開幕式と静岡県春の式典

5月2日、グランシップにおいて東アジア文化都市「春の式典」が開催され、韓国の全州市から金仁泰（キム・インテ）副市長が出席するとともに、韓国の伝統芸能も披露された。

今回、この春の式典を機に、本県を広く韓国へ発信してもらおうべく、全州を拠点に活動する記者を2名招待した。一人は全羅北道を代表する「全北日報」のキム・テギョン記者、もう一人は韓国最大の民営国内通信社「NEWSIS」に所属し全州で活動するユン・ナンスル記者だ。私は記者の案内役として4月30日から5月3日まで県内各地の取材のお供をした。期間中、富士山世界遺産センター、富士高砂酒造、ふじのくに茶の都ミュージアム、バンダイホビーセンター、青葉おでん街、駿府匠宿などを訪れ、静岡の食文化、伝統のものづくりなどを満喫してもらった。NEWSISでは既にウェブサイトの文化面で韓国全土向けに紹介されたところであり、全北日報でも近いうちに全羅北道の道民向けに静岡を紹介する予定だ。

実はこれに先立つ4月26日、全州市でも開幕式が開催され、本県からは出野副知事が出席するとともに、宮城聡芸術総監督が率いる劇団SPACが会場にいる多くの韓国人及び中国からの招待客を前に「羽衣」を上演した。中国代表の成都市と梅州市はともに伝統芸能の映像をスクリーンで流すだけだった中、海外から唯一、生の舞台を披露したSPACは拍手喝采を浴びた。全州市はこの開幕式の舞台で韓国伝統の音楽演奏を披露するのみならず、トリで人気歌手Aileeを登場させ、K-pop文化を足すことで、式典自体を大きなステージにしていた。宮城監督によると、過去にも東アジアの別都市で同様の式典手法を使っていたのを見たことがあるとのことで、言われてみると確かに韓国らしい。交流することでわかることは多い。東アジア文化都市が3か国の各都市が相互の違いや面白みを知る場になればよいと思う。

## 経済

### 日本と異なる韓国の祝日

5月1日がメーデーというのは、韓国も同じだ。少し異なるのは、民間企業では従業員に有給休暇を付与する義務があるということだ。「勤労者の日制定に関する法律」があり、「勤労基準法に基づく有給休日とする」と定められている。例外として公務員には適用されない。

韓国では祝日の振替の仕方も日本と異なるので紹介しよう。日本の「国民の祝日」は16日あり、全て日曜日などと重なった場合、振替が適用される。ただし土曜日は振替にならないため、最近では月曜日を祝日とするなど、休暇取得しやすい形に祝日自体を変えている。

一方韓国の祝日（公休日）は15日であるが、日本のように月曜日を祝日にはしない。複雑だが、三連休であるソルラル（旧正月）とチュソク（秋夕。旧盆）は日曜だけが振替対象。三一節やこどもの日など5種類は土日ともに振替対象で、残り4種類は振替不可だった。過去形なのは、5月2日に仏誕節とクリスマスが振替対象に拡大され、振替不可の祝日が元日と顕忠日（6月6日）のみとなったためだ。実は韓国の振替休日の歴史は浅く、2014年から始まり、2021年によりやく広く拡大されたものの、前述の4種類には適用が保留されていた。今年は5月27日だった仏誕節が29日に振替となるので三連休となる。それが月初に確定するあたり、いかにも韓国らしい。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 2023 河東世界茶エキスポに出展

5月4日から6月3日まで、韓国最南部の慶尚南道河東（ハドン）郡にて、2023 河東ワールド・ティー・エキスポが開催された。当所では、お茶振興課（世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会事務局）と協力し、期間中の5月18日から24日まで、東アジア文化都市・静岡県の茶文化や茶草場農法、観光地としての魅力を周知するため、静岡県ブースを設置・運営し、PRを行った。

県内の茶草場農法にて作られた複数のお茶屋さんのお茶を主に冷茶で試飲できるようにして提供するとともに、県内の観光パンフレット等を提供した。お茶振興課は緑茶（深蒸し茶、煎茶）、紅茶を用意し、掛川市内から参加された「ゆとみソリューションズ」からほうじ茶を提供し、様々なお客様に飲んでいただいたが、特に人気があったのが紅茶であった。その次がほうじ茶。ほうじ茶が人気であろうことは何となく想像がついていたが、静岡産の紅茶の旨みに気づいてもらえるのは、何とも言えない嬉しさがある。緑茶も皆さん美味しく飲んでいただいたが、人によっては、顔をしかめる人もいた。理由は苦さであろう。韓国の緑茶は、多くが日本の緑茶より薄味であるためである。しかし、私はもっとそういった反応があると思ったのだが、意外にも「苦さは全然気にならない。美味しい」というお客様が多かった。日本食に慣れている人が増えてきたからかもしれない。

河東郡は、韓国の二大茶産地の一つである（もう一つは全羅南道宝城（ポソン）郡）。そして、統一新羅時代の828年、唐から帰国した使臣・大廉（テリョム）が茶の種子を持ち帰り、初めて韓国で茶が栽培された場所でもある。茶畑は花開（ファゲ）というエリアの主に平地ではなく山に作られている。このため、茶農家の数や栽培面積も減少傾向にある。一方、2017年に河東の伝統茶農業は世界農業遺産に登録された。茶に関連する登録は韓国では初、世界でも現在まで5つしかない。そのうちの 하나가、静岡県の茶草場農法であるのだから、縁がある。

驚いたのは、来場客数だ。結構不便な場所（ソウルから市外バスで4時間）なだけに、平日はそれほど来場客がないのだろうと予想していたが、見事に裏切られた。平日は高齢者施設、障害者施設、学校や保育施設など、団体バスで周辺地域から続々と押し寄せるのだ。土日には日本でも活動したキム・ヨンジャ氏のコンサートなど集客イベントが併催され、平日以上の来場者であったし、茶関連の学会も併催され、さすが初の政府公認の茶エキスポというだけの賑わいを見せていた。イベント集客方法含め、韓国には学べるものが色々ある。

## 経済

### 韓日経済人会議

5月16日から17日にかけて、ソウルのロッテホテルで韓日経済人会議が開催された。日本からは日韓経済協会の佐々木幹夫会長（三菱商事株元会長）、麻生泰副会長（麻生セメント株会長）、韓国からは韓日経済協会のキム・ユン会長（山養ホールディング会長）など日韓経済界の大物が参席。サプライチェーン（供給網）の再編など相乗効果を生み出すために先端産業分野などにおいて協力することで一致した。会議では、日本の自治体代表として松村地域外交担当部長が発表、自治体だからできる地域外交の意義を紹介し、多くの賛同を得た。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 経済

### 円安急進で訪日旅行がお得に

韓国ウォンに対し円安が急激に進行している。6月19日にはウォン/円の為替レートが一時100円当り900ウォン台を下回り、2015年6月以来8年ぶりに800ウォン台に突入した。

この円安のおかげで、韓国人による訪日旅行が活況だ。韓国の航空統計によると、今年1月から5月までの間に日本を訪問した旅客数は約350万人に達する。前年同期の約7万人と比べると約50倍だ。航空券も日本路線が増えたおかげで、一時期よりだいぶ安くなっているし、例えば800円(約7,200ウォン)のランチはソウル市内のランチ代(10,000ウォン前後)と比較しても格安に感じる。「日本はタクシー代が高いと聞いたが、東京の初乗りは500円。ソウルの基本料金は4,800ウォン(約600円)で、むしろソウルの方が高い」という声もある。

旅行最大手のハナツアーの場合、6月第3週は前週比約3割増の予約率で、特に北海道と大阪を中心に増えているらしい。同社は静岡を目的地とした商品も販売しており、富士山静岡空港を利用した商品も着実に売れている。旅行予約プラットフォームのマイリアルトリップでは、海外の航空券売上のトップ3を大阪、東京、福岡と日本主要3都市が独占している。一方、大阪等は韓国人旅行者が多すぎて「韓国人があまりいない地方に行きたい」という声も聞く。県内のゴルフ場に関する問い合わせも増えている。円安訪日旅行のおかげで、地方への注目も増しつつあると言える。

## 経済

### チェジュ航空、10月29日から静岡路線を週4便に

チェジュ航空は1年に2回「チム特価」という航空券セールを行う。6月と1月に行うのだが、セールのタイミングは即ち、冬ダイヤ(10月末～3月末)と夏ダイヤ(3月末～10月末)の初売りの開始でもある。

この度、6月13日の10時から冬ダイヤの初売りとなる「チム特価」が開始された。これまで静岡・ソウル線の夏ダイヤは水・金・日の週3便(4月25日から6月末までは期間限定で週7便のデイリー)だったが、見ると、冬ダイヤは月・水・金・日の週4便となっていた。同社とやりとりがある我々事務所にも直前にもたらされた情報であったのだが、直接この目で確かめるために同社のサイトにアクセスを試みたところ、接続がパンク状態で、ようやく午後になって確認できた。冬ダイヤは発着がそれぞれ約1時間遅くなる。仁川に到着する時間は遅くなるが、仁川を出発する日は1時間余裕ができたことになる。日本からの旅行者にとってはありがたいのではないだろうか。今後さらに需要が増え、静岡・ソウル線がデイリー化することになれば、旅行商品も組みやすくなる。今のところ、日本人と韓国人の搭乗比率は3:7くらい。県民の皆様には是非もっと活用していただければありがたいと思う。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 「伝統あそび」で日中韓の青少年が交流（全州市）

今年、静岡県と同様に韓国で「東アジア文化都市」に指定されている全州（チョンジュ）市で7月26日から30日にかけて、「東アジア青少年伝統あそび文化まつり」が開催された。このお祭りの中心は「伝統遊び三国地」と名付けられた3か国の学生によるチーム対抗型交流イベントである。本県から参加の静岡サレジオ高校の生徒（9人）と、中国・成都市の成都市文化芸術学校（9人）、韓国・全州市の完山（ワンサン）女子高校と韓国伝統文化高校（合わせて27人）の生徒たちが、それぞれ韓国3人、日本・中国各1人の計5人に組み分けされ、これにメンターの韓国人大学生1人を加えた計6人で1チームを構成、全9チームで3か国の伝統あそびを行いながら、互いに交流・協力し、楽しく順位を競う仕組みである。

それぞれ互いの言葉がわかる生徒もいれば、わからない生徒もいる。それでも若者たちはすぐに打ち解け、仲良くなり、連絡先を交換する。私が恐れ入ったのは、参加者に配られたマニュアルだ。デザイン、記載内容ともによくできていて、かつ3か国の言葉にそれぞれ訳されたものが各国生徒に配られていた。また、伝統あそびも今風にアレンジされ、あるいはショートムービー（インスタグラムのリール）を自由なアイデアで作る競技もあった。子供たちは楽しいはずだ。本県からは県理事も会場を訪れ、最終日の解団式でスマイル賞（静岡県賞）を授与した。よく企画された大成功の交流事業だ。関係者に改めて敬意を表したい。

## 社会・時事

### 江原道（カンウォンド）が「特別自治道」に

今年6月11日、韓国東北部の広域自治体である江原道が江原「特別自治道」になった。韓国の広域自治体は、1995年の本格的な地方自治復活以降、「特別市」（首都ソウル）、「広域市」（釜山や仁川などの大都市）、「道」（京畿道や忠清南道など。日本の「県」に相当）の3つが基本であったが、2006年に韓国最南端にある島、済州島が特別法によって「道」から「特別自治道」に指定された（例外としてこの他に、国家行政機能の移転により行政中心複合都市として2012年に誕生した世宗特別自治市が存在）。地理的・歴史的に発展阻害要因があった地域の発展を政策的に促進する意味で設定されたものが「特別自治道」であるが、これまでは「国際自由都市の建設」を掲げて誕生した済州特別自治道以外、存在しなかった。

江原道は江陵（カンヌン）と原州（ウォンジュ）の頭文字を取り、1395年の朝鮮時代からずっと続いていた自治体名称であるが、今年、発展的に解消したことになる。北朝鮮と国境を接していることから国家安保の意味合いで開発を規制されてきた面がある。また、環境面での規制も大きく、他地域に比べ発展が阻害されてきた。特別自治道となることで、人事権や様々な特別支援を国から受けることになる。道は6月19日には「未来江原2032 発展政策」を発表し、人口200万人（現在約150万人）、GRDP100兆ウォン（約11兆円）などの目標達成に向けたビジョンを盛り込んだ。キム・ジンテ知事は「これまで江原道は大韓民国の発展のために譲歩した。江原特別自治道は大韓民国のために発展する」とし、規制緩和による産業育成や雇用増により未来産業グローバル都市にすると意気込んでいる。避暑地としても人気の江陵などの東海岸を抱える江原特別自治道。今後の発展が期待される。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

## 6年ぶりに開催された民防衛全国同時訓練

8月23日午後2時から20分間、民防衛（ミンバンウィ）訓練が行われた。韓国において北朝鮮の侵略や天災地変による人命、財産上の被害を防ぐことを目的として実施される訓練であるが、今回のように全国民を対象とし、全国同時一斉の形で行われる防空訓練は6年ぶりである。

今回の訓練はこういうものだ。午後2時に訓練「空襲警報」が発令。迅速に近くの待避所または地下空間へ待避し、移動制限を受ける。車両は道路の右側に停車。車内でラジオをつけながら、案内放送に従い行動する。15分後に「警戒警報」に段階が下がると待避所から出て通行も可能となり、20分後の「警報解除」で終了となる。

しかし、デスクワークをする者まで無理に地下に退避させるのではなく、あくまで歩行者などが統制される形というので、訓練に参加するため、敢えてオフィスの外に出た。場所はソウル市役所の西に隣接する大通り。サイレンが鳴ると、ゆっくりと車は右に停車誘導される。しかし「民防衛待避所」のマークがある市庁駅の地下道出入口には旗を持った係員がいるが、それほど積極的に誘導はしない。気づかず待避せず歩く人も多い。少し拍子抜けした。

だが、地下道に入ると、人はそれなりに集まっていた。訓練に巻き込まれる形となった外国人観光客もあり、しばらくの間、皆そこで待機をする。通常の場合なら、おそらくこれだけなのだろう。しかし、私がいた場所はソウル市役所からの連絡通路の近くだったため、ソウル市の呉世勳（オ・セフン）市長も訓練に現れた。地下鉄1号線市庁駅の改札周辺には、民防衛に関する展示や参加型の心肺蘇生法訓練、非常食（握り飯、じゃがいも、水）の配布が行われ、市長が視察する様子をカメラに収めようと多くのメディアが殺到していた。

空襲に対する訓練というのはわが国ではあまり行われませんが、印象としては、日本で参加する防災訓練とそれほど変わらない。差は銃器関連の展示くらいだろうか。

オフィスに帰り、ビル内の様子をスタッフに聞いたところ、「外でサイレンは聞こえたが、何もなかった」とのこと。室内にいれば気が付かないで終わってしまう訓練のようだ。日本人が韓国旅行でたまたま訓練に遭遇したとしても、慌てる必要はなさそうである。

経済

## 意外と冷静—ALPS処理水放出に対する韓国における水産物への反応

東京電力によるALPS処理水放出に関しては、国内においても諸外国の反応が報道されていると思う。韓国では最大野党「共に民主党」が政争の道具として大いに活用しているが、中国や香港のような極端な反応は起きていない。韓国政府は非常に冷静に報道発表等の対応をしており、ソウル市も8月24日の放出後から、水揚げ国に関係なく、水産市場で水産物の検査を毎日実施し、結果をウェブサイトに掲載するなど、市民の心配を取り除く努力をしている。その甲斐もあってか、放水直後の週末である8月26日、27日の両日は、ソウル、仁川、釜山の主要3水産市場における客足は、放出前の前週より多かったようだ。どの国民もメディア等の影響を受けるが、今回、韓国民は意外と冷静に対応している。

ただ、不安に感じている国民が多いのも事実。韓国民の反応を誤解せず、冷静に見守ってほしい。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 忠清南道の歴史文化祭「大百済典」に友好協定10周年で知事、議長等参加

静岡県と友好協定を締結して今年で10周年となる忠清南道の公州市及び扶余郡にて、9月23日から10月9日までの17日間、「大百済典」が開催され、本県からは開幕式に知事、閉幕式に県議会議長が招待され、出席した。

紀元前から始まった王国・百済の2つ目の都である公州市（当時は熊津）と3つ目の都、扶余郡（当時は泗水）では、1955年から百済文化を称え復興し祝う百済文化祭を開催しているが、忠清南道などが支援してこれを10年に1度盛大に開催するものが、大百済典である。

開幕式に先立ち、金玉彩（キム・オクチェ）駐横浜韓国総領事も立ち会う中、友好協定10周年を記念し、公州大学校にて、川勝知事と金泰欽（キム・テフム）知事が相互の情報や人的往来の促進などを含む共同宣言に調印した。

大百済典開幕式には尹錫悦大統領も出席した。大統領が祝辞の結びで「百済文化が日本古代文化と緊密な交流をしつつ、日本の古代文化に大きな影響を及ぼしたことを皆さんご存知でしょう。本日、この大百済典を祝うためにこの場に参加して下さった駐韓日本大使、静岡県知事、奈良県知事にも感謝いたします」と、他国の来賓もいる中で特別に言及したことには、少し驚いた。日韓関係の改善に対する強い意欲の表れと感じた。

9日の閉幕式の前には、県議会議長団と忠清南道議長団の懇談の場が設けられ、お互いに10周年を祝った。中沢議長から10月末よりデイリー便となる静岡—仁川路線とともに、質の高いゴルフ場が多いことを紹介したところ、忠清南道議会側からは「道内にもゴルフ愛好者が多い。関係団体や会員を調べるので、ぜひゴルフで交流したい」と具体的な話も飛び出した。韓国人ゴルファーは国内でのプレイ料金が高いので、隣国の日本へのゴルフ旅行に関心が高い。同じく議長団が訪れたチェジュ航空においても、金二培（キム・イベ）社長が県内のゴルフ場の質を高く評価している。冬でもゴルフができる静岡なので、忠清南道とゴルフ交流ができれば、冬ダイヤの搭乗率アップに一役買ってくれるかもしれない。

大百済典期間中は他にも、環黄海フォーラム（道主催国際フォーラム）への登壇、経済友好団（静岡商工会議所）による訪問、登山交流（忠清南道庁山岳会と静岡県ワンダーフォーゲル会）、伝統芸能（三島しゃぎり）の披露など幅広い分野で交流が行われた。韓国と日本は社会の課題も類似しており、互いに学べる点も多い。こういった往来の繰り返しによってそれぞれが感じ、新たに発見したコトや関係から、さらなる交流・発展が生まれていく。事務所ではその一助となれるよう、引き続き努力していきたい。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

## 行政

### 一足先に全州で東アジア文化都市が閉幕

2023 東アジア文化都市もいよいよ 12 月でその期間を終える。韓国の全州市では、静岡県より一足先に、11 月 2 日に閉幕式を迎えた。静岡県からは行政団及び式典での公演を行う公演団、併せて 14 名が全州市に向かった。

全州市の閉幕式会場となったのは、国立無形遺産院の公演場である。エントランス上部の幅 5 メートルを超える常設大型液晶スクリーンに、本県を含む日中韓 4 都市の音声付き東アジア文化都市紹介映像が流れる。院は国家予算で設置された施設で、ハコモノ設置に大規模予算を投入することに慎重な日本の、それも地方ではあまり見ない規模の施設である。

中の公演場は、本来、パンソリや韓国伝統音楽などを披露する場であるため、客席もそれほど広くはなく、来場者は多くて 500 人程度と閉幕式としてはちょうどいい規模。開会すると、韓国の伝統衣装に身を包んだ女性グループの舞が披露された後、ウ・ボムギ全州市長が 1 年間の活動を振り返りながら、惜しみながらの閉幕宣言を行った。来賓として出席した渋谷静岡県理事（東アジア文化都市担当）も壇上に上がり、900 を超える行事に 700 万人超が参加している静岡県側の状況を報告するとともに、特に全州市が主催した日中韓 3 か国の高校生がチームを組んで行った「青少年伝統遊び文化まつり」に三国の未来の姿を感じたと伝えると、会場にはほほえましくうなづく姿が多く見られた。

閉幕式は、韓国のテコンドーとダンスを組み合わせたグループの公演のほか、本県からは島田市出身で津軽三味線世界大会 A 級優勝者の大塚ハレルヤ氏が劇団 S P A C 俳優によるナレーションと静岡県の映像を背景に、素晴らしい三味線の演奏を披露した。

日中韓での開催とはいえ、今年は中国との往来がまだ難しい中、本県と全州の間の交流が数多く行われ、全州市と同規模の人口を抱える静岡市との間で、自治体間交流を推進する話が進展している。10 月中旬には大長副市長が全州未来都市フォーラムに出席。11 月には大道芸ワールドカップにも全州市から 2 名のアーティストが参加し、全州市長も来静した。東アジア文化都市をきっかけに、富士山静岡空港を利用した両市の交流が深まれば嬉しい。

## 社会・時事

### 日韓交流おまつりに県内から 2 団体参加

10 月 22 日、ソウル特別市江南区の COEX で「日韓交流おまつり」が開催された。2005 年に始まり、毎年同時期に東京とソウルでそれぞれの大使館などが中心となり、大学生やボランティアなど多くの民間関係者を運営に巻き込みながら、両国にそれぞれ関心を持つ層をターゲットに実施しているイベントである。昨年も参加した本県は、昨年よりブースを増やし、2 ブースで静岡の観光地や食、文化の魅力を発信するつもりで準備をしていた。

このような中、菊川市を中心に活動する「劇団静岡県史」が朝鮮通信使と徳川家康をテーマにした演劇をメインステージで披露することとなり、また、「天竜浜名湖鉄道」もブース出展することとなったため、結果的に連結・隣接した 5 ブースを展開し、本県各地の魅力を過去最大規模で伝えることができた。ブースでは劇団の舞台衣装を着て浜松城を背景にチェキで記念撮影をしたり、劇場版エヴァンゲリオンに駅がモデルとして登場した天浜線のブースには、登場キャラのコスプレをしたファンが訪れたりと大変な盛り上がりを見せた。昨年以上の熱気に包まれた日韓交流おまつり。両国の良好な関係が感じられた。

# 韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

## スタバで使い捨てコップが復活—政府が方針転換

打ち合わせのため当所を訪れたある来客は、「コーヒーをどうぞ」と言いながら、自身が持参したスターバックスのコーヒーを私達に勧めてくれた。「所長はホットとアイスどちらが…」という相手の顔を見ながら、私とスタッフのユは同じ理由で驚き尋ねた。「あれ？この辺りのスタバは持ち帰りの場合、再利用できるプラスチック容器で提供されていますが、いったいどこで買って来たんですか？」

2021年12月報告「使い捨てカップがないスターバックス～ソウルで試験運用開始」で取り上げたが、2021年11月6日からソウル市内の主要スターバックス店内では、使い捨てコップを使わず、厚みのあるプラスチックのリューザブルカップを使用していた。洗って返却すれば保証金の1,000ウォンが戻ってくるというもので、同年11月24日に施行された飲食店等での使い捨て紙コップ、プラスチック製ストロー等の使用禁止に合わせた取組だった。

しかし、目の前にあるコップは明らかに使い捨て用のコップだ。「あ、ちょうど制度が変わったんですよ」と面白がって言う彼の声を聞きながら、その場ですぐ調べてみたら確かにこのような記事があった。「韓国政府は7日、飲食店やカフェなどの食品接客業と集団給食施設での使い捨て紙コップの使用禁止措置を撤回すると発表した。食品接客業での使い捨てプラスチック製ストローとマドラーの使用、コンビニエンスストアなど総合小売業と製菓店業でのプラスチック製レジ袋の提供をそれぞれ禁じる措置については周知期間を延長し、取り締まりを実施しない。厳しい経営環境に置かれる小規模事業者の負担に配慮したという」（引用：聯合ニュース）。記事を詳しく読むと、昨年からの施行から1年間は周知期間にあたり、その間、環境部が状況を注視していたところ、特に紙コップと使い捨てのプラスチックストローの削減が難しいということが分かったのだそうだ。コップの場合、洗う人手や洗浄機器購入・設置、紙製ストローのコストは何とプラスチック製の2.5倍で、消費者の満足度も低かった。私自身、紙製ストローは唇に貼りついたりすることもあるからあまり好きではないのだが、環境問題に先行して取り組んでいたあのスタバがあっさり方向転換したことも含め、なんだか複雑な気持ちになった。

経済

## わさび人気は健在！COEX FOOD WEEK 2023

11月22日から25日までの4日間、ソウル特別市江南区のCOEXを会場に「COEX FOOD WEEK 2023」が開催され、今年も静岡県ブースを出展した。日韓の往来が活発化し、富士山静岡空港もデAILY運航となった今年のFOOD WEEKには、田丸屋本店（静岡市）、山本食品（三島市）、日研フード（袋井市）の3社がソウルの会場まで足を運び、計15商品について直接PR及び商談を行った。

韓国へのわさびの輸入はここ数年右肩上がりが続いてきたが、輸入業者に聞くと、日韓往来が通常化したためか、輸入物量には昨年ほどの勢いはない。しかし、展示会に出てみると、わさびは相変わらずの人気。輸入業者が直接販売した商品を含め、4日間で相当の売上を見せた。他にも、取引に繋がりそうな商談が今も継続されており、当所も引き続きフォローを行っているところだ。今年は、近年出展を控えていたJETROもようやく出展を再開し、また、青森、秋田、岩手の各県からは県庁職員と企業1社が来韓した。中国企業や他の海外企業も増え、アフターコロナを実感した展示会であった。